

写真



写真 (No.196①)
小島の南端に聳えるキノコ岩。隆起珊瑚礁が波の浸食作用により形成されたものであり、根元周辺部が浸食によりえぐられノッチとなっている。



写真
(No.196②)
ノッチの高さは約3m、奥行きは1~1.5mで、キノコ岩の根元周囲を取り囲んでいる。

写真



写真 (No.196
③)
小島の南端に
聳える隆起珊
瑚礁が波の浸
食作用で形成さ
れたキノコ岩。

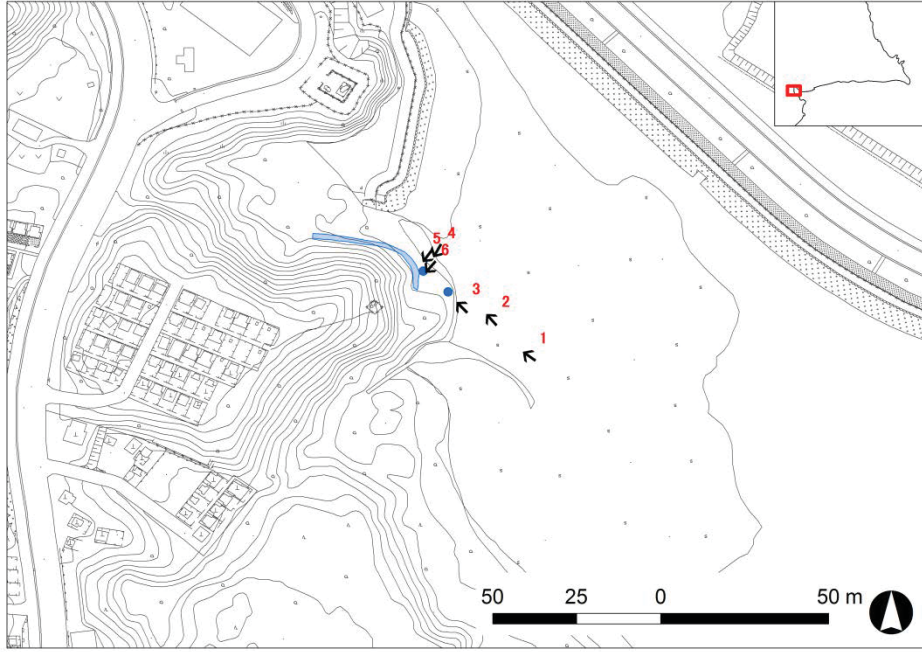


写真 (No.196
④)
キノコ岩の周辺
は不整合面を
観察しやすい好
適な露頭になっ
ている。



写真 (No.196⑤)
基盤である嘉陽
層の砂岩・泥岩
が卓越する互層
の上に、珊瑚化
石の大礫を含む
厚さ約 1.8m の中
粒砂岩(赤白ポ
ールの位置)、珊
瑚化石を大量に
含む碎屑性石灰
岩の厚い層がこ
れを不整合に覆
っている。

付表- 4.2.2.49(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.197)

No.	197
種類	嘉陽層の露頭(褶曲)、海蝕洞・石灰洞
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 7 月 1 日
概要	辺野古川の河口右岸の海蝕崖に形成された露頭で、嘉陽層の褶曲が観察できる。露頭の向かって右側 20~30m には天井のない海蝕洞が形成されている。露頭の前面には波蝕棚があるが、辺野古川からの赤土流出で埋まっている。
位置	 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【No.197(褶曲)観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 08.9802" ・経度:128° 01' 51.2435" ・標高(EL):1.784m ・標高(DL):2.947m </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【No.197-2(海蝕洞)観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 09.1855" ・経度:128° 01' 51.0054" ・標高(EL):1.966m ・標高(DL):3.129m </div> </div>
形状・構造	辺野古川河口右岸の干潟の背後に位置する海蝕崖の露頭で、嘉陽層の褶曲が発達する。露頭の前面に波蝕棚の一部が見えているが、辺野古川から流出する砂泥が堆積し干潟を形成しているため、波蝕棚が埋没し見えなくなっている。露頭に向かって右側 20~30m の位置に天井のない海蝕洞がある。
規模	海蝕崖の高さは 7~8m で、上部は上から侵入してくる木本類や草本類などに覆われ見えにくい。褶曲が発達する露頭下部はよく見えており、幅約 30m の露頭になっている。海蝕洞の入口は幅約 2.5m、奥行きは約 5m で、天井はほとんどない。周辺からススキ等が覆いかぶさっている。
その他 (保存状態)	保存状態は比較的良好であるが、辺野古川からの赤土の流出が著しく、露頭前面の波蝕棚は堆積した砂泥でほとんど埋まっている。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.197(褶曲)観測点座標】
 ・緯度:26° 31' 08.9802"
 ・経度:128° 01' 51.2435"
 ・標高(EL):1.784m
 ・標高(DL):2.947m



調査地点:No.197(嘉陽層の露頭(褶曲)、波蝕洞・石灰洞)のうち嘉陽層の露頭(褶曲)
 撮影日時:2014.7.1 14:23



位置情報:緯度 26° 31' 09.01"
 経度 128° 01' 51.64"
 撮影方向:西北西



位置情報:緯度 26° 31' 09.36"
 経度 128° 01' 51.35"
 撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 09.34"
 経度 128° 01' 51.11"
 撮影方向:南東



位置情報:緯度 26° 31' 08.75"
 経度 128° 01' 51.37"
 撮影方向:北東

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.197-2(海蝕洞)観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 09.1855"
- ・経度:128° 01' 51.0054"
- ・X座標:57628.894
- ・Y座標:52905.335
- ・標高(EL):1.966m



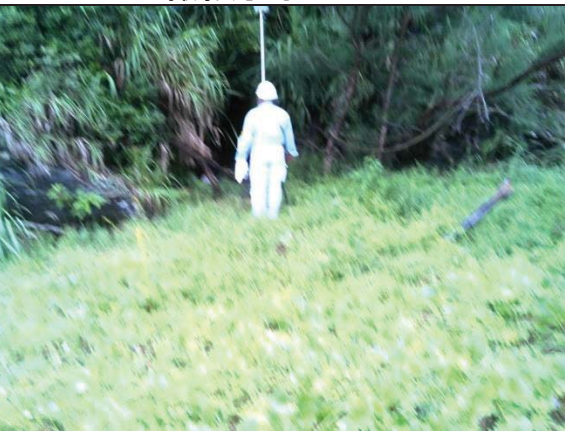
調査地点:No.197(嘉陽層の露頭(褶曲)、波蝕洞・石灰洞)のうち波蝕洞・石灰洞
 撮影日時:2014.7.1 14:32



位置情報:緯度 26° 31' 09.25"
 経度 128° 01' 51.29"
 撮影方向:西



位置情報:緯度 26° 31' 09.07"
 経度 128° 01' 51.28"
 撮影方向:北北東



位置情報:緯度 26° 31' 09.39"
 経度 128° 01' 51.23"
 撮影方向:南



位置情報:緯度 26° 31' 09.49"
 経度 128° 01' 51.01"
 撮影方向:南東

写真



写真(No.197①)
嘉陽層の褶曲が観察できる露頭。
露頭の前面には波蝕棚があるが、辺野古川からの赤土流出により埋まっている。



写真(No.197②)
同上。
海底地すべりなどによる激しい褶曲作用により軸面がほとんど水平になった横臥褶曲が観察できる。



写真(No.197③)
同上。

写真



写真(No.197④)
褶曲の露頭の
向かって右側 20
~30m の位置に
海蝕洞が形成さ
れている。

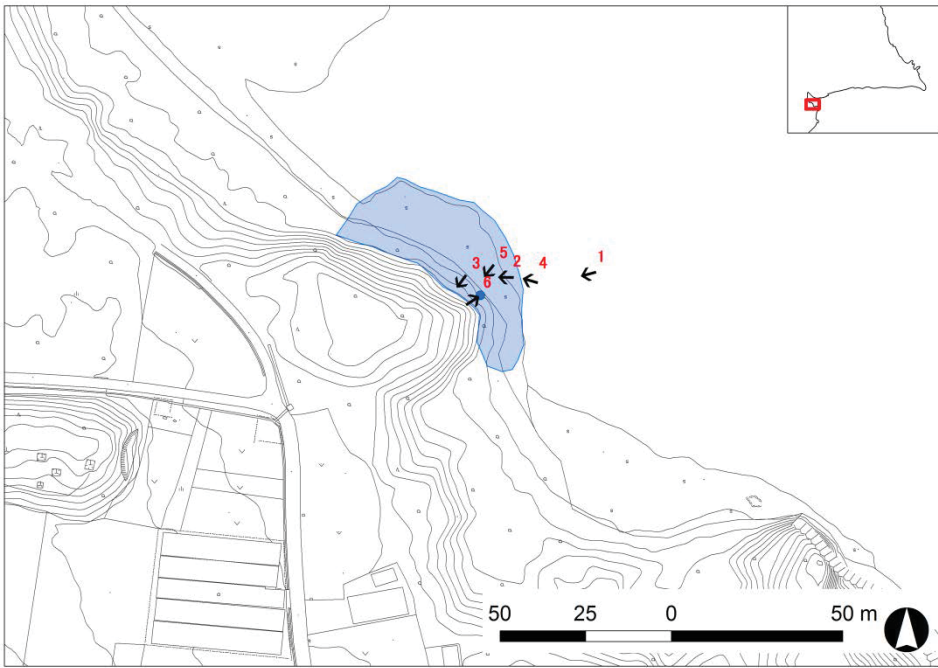


写真(No.197⑤)
同上。
海蝕洞は幅約
2.5m、奥行き約
5mで、天井はほ
とんどない。周
辺はススキなど
が生い茂ってい
る。



写真(No.197⑥)
同上。
海蝕洞の壁面
は嘉陽層の互
層で、洞内には
砂礫のほか落
葉落枝などが堆
積している。天
井がほとんどな
いため、洞内は
比較的明るい。

付表- 4.2.2.50(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 198)

No.	198
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 7 月 1 日
概要	<p>辺野古川河口右岸の海蝕崖の前面に位置する波蝕棚である。</p> <p>辺野古川の赤土流出が著しく、流出した土砂が堆積し干潟を形成しているため、波蝕棚の大部分は砂泥で埋まっている。</p>
位置	 <div data-bbox="411 1216 849 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.198 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度: 26° 31' 03.8489" ・経度: 128° 01' 55.0452" ・標高(EL): 1.055m ・標高(DL): 2.218m </div>
形状・構造	<p>辺野古川河口右岸の海蝕崖に接する波蝕棚で、辺野古川から流出する赤土により干潟が形成され、大半が砂泥で埋まっている。位置情報を獲得するための測量は海蝕崖に近い、やや高い場所で行った。嘉陽層の互層で、走向・傾斜は、N10W、17° (W 向き)で西側に傾いている。</p>
規模	<p>波蝕棚は砂泥で埋まっているため正確なところは不明であるが、崖に沿って延長 50~60m、辺野古川の流れに向かって幅約 10m の範囲でわずかに露出している。</p>
その他 (保存状態)	<p>波蝕棚は、海蝕崖に近いやや高い場所を除いて、辺野古川からの赤土流出により埋まりつつある。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

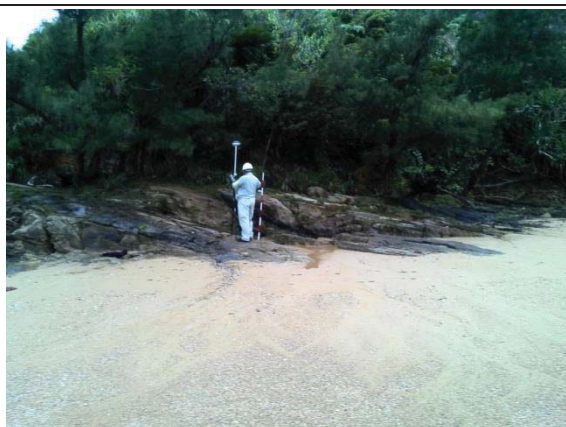
【No.198 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 03.8489"
- ・経度:128° 01' 55.0452"
- ・標高(EL):1.055m
- ・標高(DL):2.218m



調査地点:No.198(波蝕棚)

撮影日時:2014.7.1 14:46



位置情報:緯度 26° 31' 04.17"
経度 128° 01' 55.34"
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 04.28"
経度 128° 01' 55.06"
撮影方向:南



位置情報:緯度 26° 31' 04.21"
経度 128° 01' 54.83"
撮影方向:南東



位置情報:緯度 26° 31' 03.73"
経度 128° 01' 55.33"
撮影方向:北西

写真



写真
(No.198①)
辺野古川河口
右岸の海蝕崖
の前面に形成さ
れた波蝕棚。
辺野古川の赤
土流出により干
潟化し、堆積し
た砂泥で埋まり
つつある。



写真 (No.198
②)
同上。
海蝕崖に近い
比較的高い場
所は砂泥の堆
積を免れ、波蝕
棚の一部が露
出している。



写真 (No.198
③)
同上。
波蝕棚の岩相
は嘉陽層の互
層で、走向・傾
斜は、N10W、
17° (W)で、西
側に傾いている。

写真



写真 (No.198
④)
同上。
辺野古川からの赤土流出により波蝕棚は砂泥で埋まりつつある。

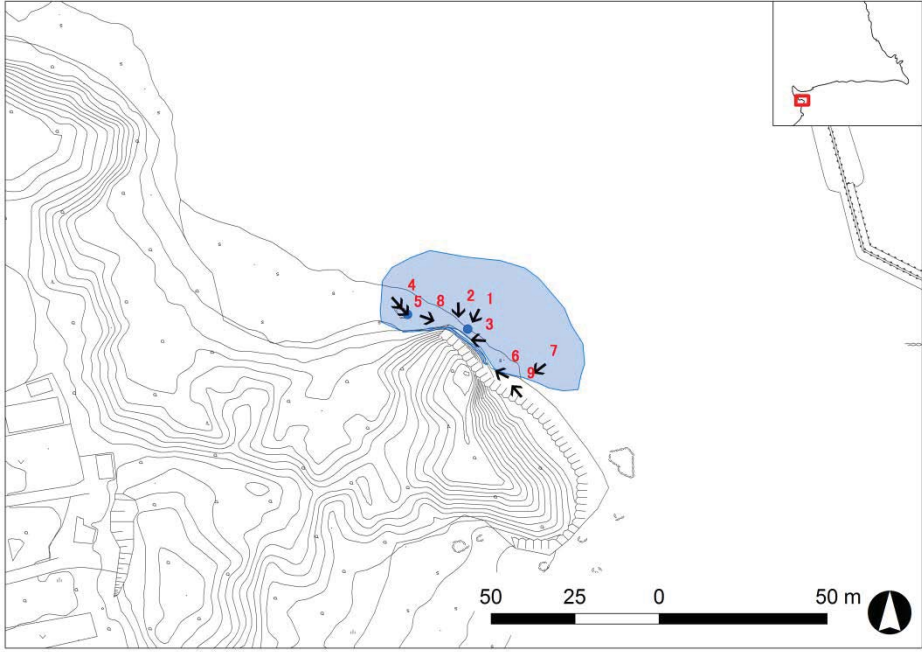


写真 (No.198
⑤)
同上。
嘉陽層の互層からなる波蝕棚。波蝕棚の高さは、崖に最も近い高い場所で干潟から2m近く高い。



写真 (No.198
⑥)
海蝕崖前面に広がる河口干潟。辺野古川からの赤土流出により、波蝕棚は砂泥で埋まりつつある。

付表- 4.2.2.51(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.199)

No.	199
種類	ノッチ、波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 7 月 1 日
概要	辺野古川河口右岸の岬の北東に面する海蝕崖の前面に波蝕棚が形成されている。波蝕棚には海蝕崖上部から崩落した岩や礫、辺野古川からの流出土砂などが堆積している。ノッチは海蝕崖の裾や崩落した巨岩周囲にみられる。
位置	 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【No.199 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 01.7409" ・経度:128° 01' 58.2639" ・標高(EL):0.014m ・標高(DL):1.177m </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【No.199-2 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 01.8862" ・経度:128° 01' 57.6891" ・標高(EL):1.197m ・標高(DL):2.360m </div> </div>
形状・構造	辺野古川河口右岸の岬の海蝕崖前面に成立する波蝕棚で、上部から崩落した碎屑性石灰岩の巨岩や礫が崖の周辺に堆積するとともに、辺野古川から流出した土砂も含め、大半が岩や砂礫で覆われている。ノッチは、海蝕崖の脚部や崩落した巨岩の周囲にみられる。
規模	波蝕棚は上部から崩落した巨岩や礫、辺野古川から流出した砂泥で被覆されているため範囲は明瞭には把握できなかったが、崖に沿って幅 30~40m、流路に向かい少なくとも 20~30m 以上の規模を有していると推定される。
その他 (保存状態)	波蝕棚やノッチは海蝕崖からの崩落物質や辺野古川からの赤土流出により被覆されつつある。

代表地点の周辺4方向からの写真

ノッチが連続して見られる海蝕崖の脚部で位置情報を得るための測量を行った。

【No.199 観測点(ノッチ)座標】

- ・緯度:26° 31' 01.7409"
- ・経度:128° 01' 58.2639"
- ・標高(EL):0.014m
- ・標高(DL):1.177m



調査地点:No.199(ノッチ、波蝕棚)のうちノッチ

撮影日時:2014.7.1 14:58



位置情報:緯度 26° 31' 02.13"
経度 128° 01' 58.33"
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 01.94"
経度 128° 01' 57.91"
撮影方向:東南東



位置情報:緯度 26° 31' 02.09"
経度 128° 01' 58.11"
撮影方向:南南東



位置情報:緯度 26° 31' 01.92"
経度 128° 01' 58.42"
撮影方向:南

代表地点の周辺4方向からの写真

波蝕棚は海蝕崖に沿い、連続的に流路側に続いていると推定されるが、崩落物質等が堆積せず、確実に波蝕棚と考えられる場所で位置情報を得るための測量を行った。

[No.199-2 観測点(波蝕棚)座標]

- ・緯度:26° 31' 01.8862"
- ・経度:128° 01' 57.6891"
- ・標高(EL):1.197m
- ・標高(DL):2.360m



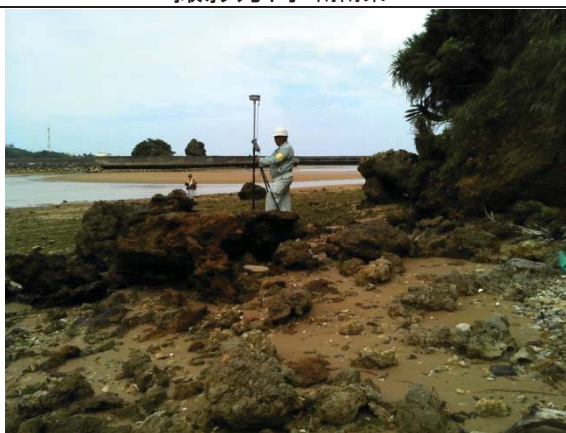
調査地点:No.199(ノッチ、波蝕棚)のうち波蝕棚

撮影日時:2014.7.1 15:09



位置情報:緯度 26° 31' 02.20"
経度 128° 01' 58.12"
撮影方向:南西

位置情報:緯度 26° 31' 01.90"
経度 128° 01' 58.13"
撮影方向:南南東



位置情報:緯度 26° 31' 02.20"
経度 128° 01' 57.63"
撮影方向:南南西

位置情報:緯度 26° 31' 01.96"
経度 128° 01' 57.43"
撮影方向:東